

## 事業実施の背景・課題、目標

**背景：**登録者（山岳、スポーツクライミング、スキーモ）の管理（氏名、住所、メールアドレス、登録種目、登録費、資格、出場権など）ができていない。  
**課題：**講習会や、資格検定会などの情報が末端まで届かない。登録管理費の徴収がうまくいかない、登録者の個人情報の修正等が大変。  
**目標：**一番多い山岳の半分の20,000人を登録いただきたい。スキーモの選手登録および成績管理をやりたい。スポーツクライミングの現行システムとの調和

## 令和5年度の取組内容の進捗・成果・課題

### 一番多い山岳の登録者を登録して所属の会員証を表示

**問題点：**今まで、NFからの山岳の登録は47都道府県 + 高体連 = 48団体しか登録がありませんでしたので、すべての情報は、NF→48団体→山岳会→個人の順番で通達されていましたが、どこかの担当者が変わっただけでも情報が途絶えてしまうことがあり、問題でした。

**課題：**その結果、講習会や検定会の募集者が不足したり、資格の講習会に出席できなく資格の有効期限が切れてしまったりなどが発生していました。

**成果：**48団体別のデジタル会員証の表示

一番最初に目指したものは、48団体の山岳の会員の登録です。全員に共通のメリットとして、48団体別のデジタル会員証の表示です。

最初は有料も考えましたが、最初は、登録いただき使ってもらうことを重要と考えて48団体の加盟員であれば無料で表示できるシステムにしました。

チラシが完成して、登録促進の日本手ぬぐいも完成して、2024年2月17、18日の全日本登山大会（TOZAN FESin2024千葉でお披露目して全国へ広げていく予定です。

### 資格証のデジタル表示

次に資格証の表示です。JMSCA公認（自然保護指導員、夏山リーダー資格証）、国際山岳連盟公認（上級夏山リーダー資格証）のシステムが完成して、準備ができ次第、進めていきます。

## 令和6年度の実施予定

### JMSCAフレンドの本格運用

JMSCA内会員約40,000人内半数の20,000人および一般登山者会員（目標10,000人）をJMSCAフレンドに登録していただき、本格運用を開始する。そのためには、専用の内容別の登録マニュアルを作成して各地で説明会をビデオで開催する。また、登録した人が選択できるように全国で夏山リーダー講習会、検定会、上級夏山リーダー講習会、検定会を開催することが必要であり、その開催要項を全国の都道府県のアカウント所有者が作れるように開催要項をJMSCAフレンドにアップするマニュアルも必要になってきます。また、各種イベントや新春懇談会のようなものもあるので、JMSCA全組織を上げて使えるようにするためにマニュアル、操作指導、説明会の開催を予定。

### スキーモなどの競技記録を管理する記録管理システムの立ち上げ

スキーモの選手やスタッフを登録して、競技記録を管理する記録管理システムを立ち上げます。



JMSCAとは、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会が山のエキスパート集団です。

JMSCAフレンドで学べることや知れること

- ① 全国のJMSCA 組織で開催する安全登山講習会
- ② 各種資格の取得
  - ・JMSCA および UIAA (国際山岳連盟) 公認夏山リーダー
  - ・日本スポーツ協会公認コーチ1、2、3、4
  - ・自然保護指導員
- ③ 登山道の整備や自然保護活動
- ④ エキスパート登山家による体験講座参加案内
- ⑤ スポーツクライミング競技会の開催情報
- ⑥ SKIMO (山岳スキー) の競技会・イベント開催情報
- ⑦ マイページより、登山歴を簡単に記録することができます。

JMSCA 加盟団体の皆様は、所属する都道府県山岳連盟 (協会) のデジタル会員証を表示できます。

JMSCA 開催イベントで  
オリジナル手拭い  
特定数限定の抽選プレゼント

## 事業実施の背景・課題、目標

本事業は、選手育成・競技普及だけではなく、選手教育の分野でも他競技を牽引できるモデルに成長させ、日本スポーツ界の発展と人材育成に寄与する事を大きな目標として掲げています。更に、本件へのチャレンジはクライミング界の人材育成や確保にも大きな影響を与え、本協会の中長期的な基盤強化（財務・人材）へ繋げる事も目標としています。

弊会は、東京2020まではメダル獲得を目標に掲げ、競技レベルを向上させるプログラム構築を行い、世界トップレベルの選手を輩出する事に成功しました。次のステップとして、競技力に加え、デュアルキャリアを見据えた競技人生の歩み方や資格取得をサポートする専門職アカデミーの開設の必要性を感じ、選手のビジネススキルや人間力等のアカデミックバックグラウンドの向上を図ることで、組織力に向上につなげ、ステークホルダーへの還元の源泉となることを目的としています。

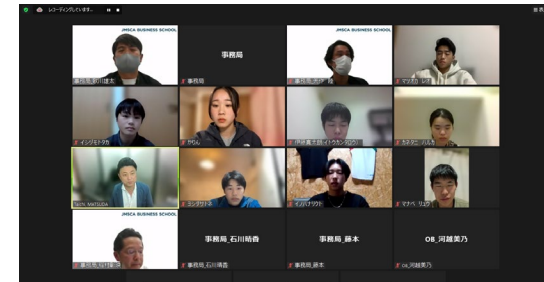
## 本事業における具体的な取組内容

受講対象 : JMSCAに選手登録をしている17歳以上の選手

参加競技層 : ユース世代トップレベルの選手、大学生、プロクライマーが中心

講義回数 : 全12回（オンライン開催）

受講するアスリート全員が、自分の進みたいキャリアが見つかり、  
そのキャリアを追求していくためのサポートをする、アスリートのためのキャリアアカデミー。



知る

### 【環境把握】

クライミング業界だけでなく、スポーツ全体、さらにはスポーツを取り巻くビジネス環境について知ることができる。

見  
つ  
ける

### 【自己分析】

自分が今後歩みたいキャリアはどんなキャリアなのかが見つかる。

準備  
する

### 【将来設計】

そのキャリアを追求していくために必要なことを理解し準備する。

# 令和5年度の取組内容

講義形式：オンライン（Zoom等の会議ツールを活用）

参加定員：20名

実施時期：2023年1月23日（月）～3月27日（月）

1月中旬～2月中旬  
第1-6回講義

## キャリアプランニング 環境把握フェーズ

スポーツ全体、スポーツライミングを取り巻くビジネス構造全体の把握やアスリートが置かれる環境を知るためのセミナー。様々なステークホルダーや、先輩アスリートをゲストに招き体験談をインプットする講義を実施。自身のキャリア形成の前段階として、アスリートとして身を置く環境を知り、把握することで、日々のパフォーマンスだけでなく、人間力向上を目指した。

2月中旬～3月上旬  
第7-9回講義+個別面談

## キャリアプランニング 自己分析フェーズ

環境を知った上で、自分自身がなぜこの競技に取り組むのか、自分の課題は何で、強みは何なのか？を自己分析。パーソナリティを把握するためのアセスメントテストやキャリアとは何か？をインプットするセミナー、ワークショップ、キャリアコンサルタントとの個別面談等を通じて、目指すべきキャリアの方向性（アスリートとして+デュアルキャリアも含めて）を推進。

3月中旬～3月下旬  
第10-12回講義

## キャリアプランニング スキル選択フェーズ

自己分析を通じて構築したキャリアイメージを実現するためにはどのようなスキル（ビジネススキル含む）が必要なのかを把握し、スキル取得のためのきっかけを作ることを目的に各分野の専門家によるセミナーを実施。PCスキルや語学スキルなど、ビジネス側面だけでなく、競技にどう活かせるか？その結果、デュアルキャリアにもどう活かせるか？を認識し、選手のスキル取得選択の後押し。

4月～  
選手それぞれで  
各種スキル取得  
講座等の受講へ

## 令和5年度の取組の進捗・成果・課題

環境把握フェーズにおいて、パートナー企業（JMCSAオフィシャルスポンサー）、メディア（NHK）、自治体（連携協定をしている佐賀県）、アスリートOBOG（為末大氏）にご講演いただき、様々な視点からインプットを頂いた。自己分析フェーズにおいては、キャリアプランナーによるOne to Oneの自己分析などを含め自己分析の場を提供し、それらを踏まえて、スキル選択として英語（JOC国際人養成アカデミー相馬氏のご講演）、PCスキルの講座を実施。その後希望者はベルリッツやMOS取得講座を受講できるきっかけを提供。

受講者アンケートを実施し、満足度は約92%だった。受講前後での価値観の変化に対する質問で「何歳になっても新しいことに挑戦できるとわかり、やりたいことの幅が広がった」「今進学でもっと幅をもたせてもいいんだ、自分のしたいことをするのにもっと自由でいいんだと考えられるようになりました」「自分は思ってた以上に多くの職業選択をすることが出来るんだということをもっとよく分かりました。」といった意見があり、一定の成果があった。一方で、受講者が22歳未満が大半で90分の授業が長い、より汎用性のあるスキルをみに付けたいといった意見もあり、2023年度事業組み立ての課題とした。

# 本事業の成果目標・KPIの達成状況

## 成果目標①：他競技団体のモデルケース

2022年度は内部浸透を、2023年度は外部認知拡大、理解浸透を目指しており、今期メディア露出を計画中。また、現時点では他競技団体による踏襲が無い現状で、2024年度は他団体からの受講希望の受入も検討していきたい。

## 成果目標②：出席者による実践

若年層が多く受講していることから、実際に企業へ就職し、デュアルキャリアとして競技の継続が見られた卒業生の輩出には至っていない。一方で、2022年度卒業生2名が自発的にマイクロソフト国際資格MOSを受講し合格したことは成果の表れである。

## 成果目標③：自走できる仕組みづくり

参加者からの受講料徴収、スポンサーの獲得等が主なキャッシュポイントになる。2023年度はテストケースと捉えスポンサーへの案内も開始した。2024年度中に参加者等からのアンケート収集により、2025年度以降の方針を固めていきたい。

## 令和6年度の実施予定

募集要項作成  
9月中旬に募集要項確定



募集開始～募集締め切り  
10月中旬に募集、国体等でも募集告知

11月中旬～12月下旬  
第1-6回講義



1月上旬～2月中旬  
第7-9回講義＋個別面談



3月上旬～3月下旬  
第10-12回講義



4月～  
実際の就職活動を意識した取り組みをタイアップ企業とスタート

### キャリアプランニング 環境把握フェーズ

スポーツ全体、スポーツライミングを取り巻くビジネス構造全体の把握やアスリートが置かれる環境を知るためのセミナー。様々なステークホルダーや、先輩アスリートをゲストに招き体験談をインプットする講義を実施。自身のキャリア形成の前段階として、アスリートとして身を置く環境を知り、把握することで、日々のパフォーマンスだけでなく、人間力向上を目指した。

※環境把握フェーズ：2022年度踏襲

### キャリアプランニング 自己分析フェーズ

環境を知った上で、自分自身がなぜこの競技に取り組むのか、自分の課題は何で、強みは何なのか？を自己分析。パーソナリティを把握するためのアセスメントテストやキャリアとは何か？をインプットするセミナー、ワークショップ、キャリアコンサルタントとの個別面談等を通じて、目指すべきキャリアの方向性（アスリートとして＋デュアルキャリアも含めて）を推進。

※自己分析フェーズ：2022年度踏襲

### キャリアプランニング エントリー準備フェーズ

2022年度は、PC・語学スキル等ビジネス側面の基礎習得を行った。履歴書の書き方、面接への留意点、競技者としての利点の活かし方など、具体的に企業に自分を売り込むにあたって必要なイロハを講義形式で提供。また、自己分析フェーズで抽出された目標に向かって必要なスキルや、具体的に売り込めそうな企業についても個別相談を設け、キャリアイメージを具現化していく。

※赤字は2023年度アップデート